

今日の一問 (やまだ塾)

(2008年5月8日掲載)

8/8 修正

No.11	少子高齢化の中で持続可能な制度の構築に向けた「最近の社会保障 3 大改革」のねらいとポイントを述べよ。
解答	<p>(1)2004 年改正の「年金制度改革」</p> <p>[1]ねらい:「子どもや孫の世代においても安心して年金を受け取れる頑丈な制度を構築」</p> <p>[2]ポイント:将来の保険料水準を固定し,被保険者数の減少等に応じて給付を自動的に調整する仕組み(マクロ経済スライド)の導入など</p> <p>①マクロ経済スライドの導入:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公的年金の被保険者数の減少や平均余命の伸びに応じ,自動的に給付水準の伸びを抑制 <p><所得代替率: 2004 年度 59.3% → 2023 年度以降 50.2%></p> <p>②将来の保険料水準の固定:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厚生年金は,保険料率を 2017 年度まで段階的に 18.3%まで引き上げた後は将来にわたり固定 <p><国民年金は 2017 年度以降, 2004 年度価格 16,900 円で固定></p> <p>(参考)年金給付総額の対NI比 2006 年度 12.6% →2025 年度 12.0%</p> <p>(2)2005 年改正の「介護保険制度改革」</p> <p>[1]ねらい:「要介護状態にならずに活力ある高齢社会の実現」</p> <p>[2]ポイント:制度創設 5 年後の見直しとして, 予防重視型のシステムへの転換など</p> <p>①介護予防への重点的な取組等:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防への重点化, 地域ケア推進のための新たなサービス体系の確立・サービスの向上 <p>②食費・居住費の原則自己負担化:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在宅と施設の負担の公平性の観点から, 食費・居住費を原則自己負担化 <p>(3)2006 年改正の「医療制度改革」</p> <p>[1]ねらい:「患者・国民の視点から, あるべき医療を実現すべく医療の構造改革を推進」</p> <p>[2]ポイント: 予防の重視, 医療費適正化の総合的推進, 後期高齢者(長寿)医療制度の創設等</p> <p>①予防の重視, 医療費適正化の総合的な推進:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病の患者・予備群の減少, 平均在院日数短縮を図るなどの計画的な医療費の適正化対策を推進

②利用者負担割合の見直し, 食費・居住費の一部自己負担化:

- ・現役並みの所得がある高齢者の患者負担の2割から3割への引上げ
- ・療養病床に入院する高齢者の食費・居住費の一部自己負担化等

③新たな医療保険制度体系の実現:

- ・高齢者世代・現役世代の負担を明確化し公平で分かりやすい制度とするため新たな高齢者医療制度創設

④療養病床の再編成:

- ・療養病床は医療の必要性の高い者を受け入れるものとして医療保険で対応し, 医療の必要性の低い者は, 老健施設または在宅, 居住系サービス等で対応

(参考)

・1990年代から2000年代前半にかけて, 一連の「構造改革」が実施されたが, 「社会保障構造改革」はその重要な柱の一つであった。

・2000年以降の「社会保障制度の持続可能性の確保」をキーワードとする医療・年金・介護の制度改革は以下の通りである。

- ① 2000年 : 介護保険制度創設
- ② 2001年 : 医療保険制度改革 (本人3割負担の導入等)
- ③ 2004年 : 年金制度改革
- ④ 2005年 : 介護保険制度改革
- ⑤ 2006年 : 医療保険制度改革

(注)「問題 64. これまでの社会保障制度改革の流れと現在の「社会保障制度」が直面している課題を述べよ。」を参照のこと。

<http://www.yamadajuku.com/>

やまだ塾

Copyright(C) 2008 Shunsaku Yamada. All rights reserved.